

# めだかの学校たまよ

平成 28 年 2 月 1 日  
第 91 号  
学舎：周智郡森町一宮  
「一宮総合センター」  
事務局：静岡県磐田市  
家田 529-20  
TEL:0539-62-6691

## 校長訓話

第九十一回 校長 大島 たまよ

「着物徒然（きものつれづれ）」

私は機会があればなるべく着物を着るようになっています。現在の日本では着物を着ることは何か特別なことになってきてしまいました。こう心掛けるようになったのは、インドの滞在経験があったからかもしれません。私の滞在当時、インドの女性たちは民族服であるサリーを身にまとっている人たちが大半でした。私はそれがとても美しいと感じました。

日本に帰る前には必ずタイに立ち寄りしました。タイでは民族服は都会ではほぼ消えていました。洋服が安かったので、日本で着るためによく購入しました。しかし、形だけ真似している服は何とも着心地が悪く、体の動きに馴染まないものばかりでした。タイもインドも日本も、洋服の文化ではなかった国です。そしてどの国の民族服も、生地の無駄のない使い方を工夫した作りで、古くなれば使える部分で子供服を作ったり、小物や作業着に作り替えたり、

それが使えなくなればオシメや雑巾になるまで、布の命を充分に全うするものでした。

刺し子や裂織、酒袋や米袋の繕いなども芸術的なまでに完成された日本人の布の命を大切に作る心の集大成だと思います。

また着物を着るようになって、日本人がいかに季節と向き合ってきたのかを知りました。日本には様々な季節感があり、それが24節氣72候の層に沿ったものであり、風土の息遣いに根差したものであることが肌で感じられるようになってきました。そこから生れた言葉や用語なども細やかで繊細な四季の感覚を伝えるものです。

しかし今ではそんな歴史や言葉の意味・古典文学の教養などがなおざりにされていると感じます。このような伝統を伝えてゆくのは、次世代を育む女性たちだと思います。その女性たちが着物を捨て、四季を忘れ、旬の食材を無視した料理を作るようになっては、誰がこの先人たちの英知を次世代に繋いでゆくことが出来るのでしょうか？

「食」の大切さに目覚めた人は多くなってきたと思います。でも「衣」は？

現在日本の「衣」の自給率は4%程度で

す。その中の原材料である糸の自給率は、木綿や麻は0%、絹は1%程と何とも頼りない状態です。「食」の基本は農業ですが、「衣」もまた「農業」。すべての基本は農業にあります。

19世紀の半ば、ほんの150年前前まで石油を利用する術を知らなかった私達は、食・衣・建材・肥料、生活に関わる全てを植物で賄っていました。だから植物の循環を生活の基盤に据えて、自然から色々なことを学んできました。

現在起こっている地球を蝕む人類の問題の数々は、この基本に返ってみることで根本的な部分が見えてくるのではないのでしょうか？



## めだかの学校伝言板

——第91回めだかの学校を開校するので出席しなさい。

校長／大島たまよ

教頭／大谷洋介

用務員／戸田喜久雄

給食係／大久保陽・田村進治・中村明男・中村やす代

山中幸子・今村純子・池田タキ江・石野省三

村木謙式・大谷香代子・渡辺三ツ子(チーフ)

※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを！

<学舎>静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」

TEL:0538-89-7730(開校日のみ)

開校日／平成28年3月4日(金)6:20PMより

受付／大場敬子・大橋町代・内田貴久・斉藤昭(後見人)

23期通年テーマ：『足元の歴史に学ぶ』

今回のテーマ：<地域の歴史をたずねて>

<時間割>

●1時間目 社会 鈴木武史 先生

「いい加減な城下町横須賀」

●2時間目 歴史 村松達雄 先生

「明治の群像あれこれ」

●3時間目 家庭 大島たまよ 先生

「直虎=以外と知らない歴史の女性たち」

●給食の時間～3月3日は「ひな祭り」ひなご膳?～

9:30開校

# めだかたち

## ■ベトナムひとり視察旅

今回のベトナムへの一人視察は、新婚旅行以来の4年ぶりの海外。「グローバル化の波が」と言いながら、遠州地域だけの活動でいいのか、自分にとって新しいドアを開かなくていいのか、そんな想いに駆られてのベトナム行きとなりました。

ベトナムを選んだ理由は、東南アジアで間もなく1億人を超えそうな日本と同程度の人口規模や、沿岸部の延長が長いこと、さらには旧浅羽町のベトナムのつながり、そして釜田にいる技能実習生うち170人、2.8%がベトナムからということも、選択の大きな理由となりました。ホーチミン到着後すぐに感じたのは人の熱気。360度、人、人、道に出るとバイクは暴走族以上。鉄道、地下鉄が発達していない待ちは、人とバイクでこたえ返し、いたるところに人間の「成長したい欲求エネルギー」を体感しました。ちなみにバイクの7割がHonda、2割強がYAMAHAというほどで、日本人と価値観が共有できるといってベトナム人の調れを感じました。衝撃を受けたのは、ベトナム戦争の戦跡記念館。これは言葉で伝えることができません。米国の関わった戦争で、どれだけの若者、子供が現在もどん底を這いずっているか、日本人は基地として使われたことも含め、歴史を見直し、考えなおす必要があり。滞在中、緑茶カフェ、AEON、JETRO、丸亀製麺など、日本資本や日本貿易の窓口の方と交流してきました。滞在時間が1.5日と非常に短かったです。

中身は相当濃いものになり、次につながる視察ができたと自信を持って言える旅になりました。ベトナムについて、まだまだ知りたくまりましたので、めだか生の皆様、ぜひ教えて下さいね！（草地球昭メダカ）

## ■第14回全国まちづくり交流会 IN 松阪 地域の宝物を活かそう

『第14回全国まちづくり交流会 IN 松阪』は28年6月3日（金）・4日（土）・5日（日）の3日間、三重県松阪市飯高町、飯高町で開催します。第14回のテーマは、「地域の宝物を活かそう」。主催は第14回全国まちづくり交流会 IN 松阪実行委員会。日程、6月3日（金）受付17:00、前夜祭18:00、再開と新たな出会いに乾杯。会場はリバーサイド茶倉パーベキューハウス。6月4日（土）9:00 松阪の田舎ツアー①飯高コース②飯高コース。12:00 昼食。本大会（会場は飯南産業文化センター）。13:30 開会式、13:30 基調講演「高校生レストランの仕掛け人が語る」地域の宝物を活かそう。講師岸川政之さん（百五経済研究所）。14:40 休憩、14:50、何コレ！三重コレ！（野良着のフアッションショー）、14:45 休憩

16:00 分科会①地域の宝物（資源）をどう活かすか②情報発信をどうするか③地域文化とまちづくり④地域産業と連携。17:30 分科会終了。18:15 大交流会。会場はリバーサイド茶倉パーベキューハウス。芝生広場（三重の食を堪能）、時期開催地発表、20:30 大交流会終了。21:00 夜なべ講義（各宿泊施設広間）。6月5日（日）8:30 解散、9:00 オープンツアーあり。料金 大会参加料1,000円、前夜祭3,000円、交流会4,000円、夜なべ講義1,000円、宿泊6,000円（朝食付）計15,000円。

申込み締切は3月31日です。なお、めだかの学校第92回は、6月3日（金）のため、学校優先で、4日の本大会からの参加を予定しています。人数が多い場合は、マイクロバスを借りて、参加したいと思しますので、早めに事務局までご連絡ください。実行委員会へ直接申込み、問い合わせの方は、TELは、090・3257・8665 山本さん又は、090・411076304 田垣さんへ。

## ■いわた大祭り遠州大名行列・舞車

遠州大名行列は、東海道見付宿（宿場通り）を舞台に4月23日（土）午前10時、午後8時40分まで行われます。午前10時30分オープニング、正午大名行列発駕、13:30 分大名行列本陣入り、15時45分大名行列到着、15時50分舞車おどり、19時45分舞車引き合わせ・新舞、20時40分終了。問い合わせは、0538・37・3792 実行委員会へ。大名行列には、多くのメダカ生も関わっています。

## ■遠州に春の訪れを告げる「三熊野神社大祭」

「遠州の祭りは横須賀に始まり、森に終わる」4月1、3日、遠州横須賀・三熊野神社大祭、城下町の風情を残す狭い町並みに、13台の柵里（ねり山車）が繰りだし、三社祭礼囃子の名調子にのって曳きまわされます。江戸天下祭の流れをくむ「一本柱万度型」と呼ばれる柵里の上では、おかげひよっとがおもしろおかしく舞い踊り、江戸火消装束に身を固めた若者たちが、「したした」の掛け声とともに、右へ左へと柵をかりながらゆったりと曳きまわされてゆきます。

また横須賀の町並みは、昨年4月に掛川市景観計画に基づく「景観形成重点地区」

に指定され、「柵里の似合うまちなみづくり」をテーマに、町並みの保存や住民の良好なコミュニケーションの持続などに取り組んでいます。切っても切れない「祭り」と町並み、遠州横須賀・三熊野神社大祭でお楽しみください。

4月1日（金） 揃い 前夜祭  
2日（土） 宵宮 奉納祭  
3日（日） 本祭 千秋楽  
（鈴木武史メダカ）

## 「人ひと・ヒト」だより

今回はたくさんの方の年賀状から少しだけ転載します。

●藤枝市の小嶋良之メダカ。昨年は世界和紅茶会議の事務局となり、100種類以上の国産紅茶を試飲、見事に撃沈。味覚は初級以下でした。その年の言葉は、愛しても、その悪を知り、憎みてもその善を知る。「礼記」

登り坂と 下り坂は ひとつの 同じ坂である。「ヘラクレス」。

●浜松市の大谷洋介メダカ。遠州の俳人松島十湖翁の書を写真にして：内容は、「いつまでもあると思うな親と金」「ないと思いうな運と天罰」、なにを感じますか？

●浜松市の古橋利雄メダカ。めだかの12月校で、バラさんの「コラーツ」を聞いて元気を回復しつつあると安心しました。が、トシヨリに「コラーツ」はいかがなものかなー、冗談ですよ、もっとピシピシやって下さい、だって。「コラーツ」というのも疲れるんですよ。（笑） バラ。

●長久手市の横田浩臣メダカ。愛知万博以来、長久手市では緑が減少し、その質も低下。良質な緑地回復を目指して「里山づくり」を楽しんでいると、仲間が増えないの

が悩み。農家の協力を頂き、山から流れ出る水を用い、ハザ架け餅米を作り、餅をつき、周りに有り余る青竹を切り出し、正月飾りを作った、と。

●浜松市の石野省三メダカ。仲睦まじく社会を形成する羊に期待を寄せた昨年、格差、排外、個別主義が懸念される年になってしまった。社会の劣化が心配される中、今年はいたずら好きな申の本能を借りて、知恵とスピードと組織力をもったコミュニケーション力を磨いて、ひとり一人の存在感のある社会の実現のチャンスにしたい、と。

●NPO法人日本つみくさ研究理事長の取手市の篠原準八メダカ。日本つみくさ研究会は昨年四名の「つみくさクッキンググループ」を誕生させ、利根川のつみくさ料理教室も軌道にのってききました。

●本年も取手市民大学特別講座が引き続き開講され、つみくさサミットも視野に入ってきた、と。すっかり体力も衰えました、とも。『ああしんど』の仲間がいっぱいで、す」とはバラメダカ。

●浜松市の小野田宗弘メダカ。早く奥さんを亡くされ、ハンデイのあるゆめちゃん、誠大君、慶都君3人のお子さんを、高校の教師をしながら育てる前向きさ。その彼に春が！、『再婚と禁煙に成功しました！』だつて。良かったア、嬉しいね。

●津市芸濃町の杉谷知也メダカ。昨年も自主上映会「卑茂庭」摺上川の流れとともに、「土徳派離れ奥州南相復興への悲願」と政策法務の自主研究会を企画。上映会では特に福島県をテーマにした映像をえらんでいる。家庭では二人の子供にかこまれ育児奮闘中。6月4日(土)・5日(日)に全国町づくり団体交流会が三重県で開催されます。興味のある方は是非ご連絡を！だつて。

●飯田市市南信濃の玉置洋一メダカ。静岡県

と長野県の県境で、遠州軍(水窪町)と信州軍(南信濃)が、陣取り合戦の綱引きを毎年行っている。昨年は信州軍が勝利。遠州軍の長の鈴木康友市長、落胆してました、だつて。

●浜松市細江町の上嶋裕志メダカ。一月中旬に姫街道瓦版号外「女城主伊直虎」のマンガ本(十六ページ)を発行した。来春NHK大河ドラマで、女城主「直虎」が放映される。めだかの学校の学舎があった引佐町はまさに舞台そのもの。浜松市はもちらん周辺市町も盛り上がりつつある。ギツクリ腰、疲れたときになり易い年でございませう、お大事に、ハイ。

●静岡市の小野田全宏メダカ。(一重生)。ボラ協での仕事も三十九年になる。よくぞここまで。来年はボラ協四十年、四十年周年に向け、初心を忘れることなく、今年一年を大切にしたい、と。

●飯田市「風土舎」の長谷部三弘メダカ。めだかの学校に一日入学したいと思いが、まだまだ実現できていません。加齢で動きが鈍くなっています。と。といいつつ、一九九一年の風土舎の創設以来、毎月手書きの『ひさかた風土舎通信』を発行。一九九一年は平成三年。めだかの学校は平成五年九月、こちらは年四回開校、便りは年四回、比較してもその活動や羨ましい!

●東京の「かがり火」の菅原敏一メダカ。榊原さんのキャラクタが精神、そのものですね。益々の活躍を期待、だつて。

めだかの学校「建学の精神(こころ)」あるのに、「マイッターね」とはバラメダカ。

《新入生の紹介》  
●掛川市の松田慎也メダカ。松田配管工業社長。PTA会長や地域のために活躍している。内田貢久メダカの紹介。

《訃報》

●浜松市雄踏町の藤田潤吉メダカ。十二月二十四日午前三時三十分逝去。享年六十八歳。二十七年九月にガンを宣告されてからも、ガンと付き合って「ちんどん」をつづける。二十七年六月の第八十八回、めだかの学校の校長を務め、二十七年十一月二十三日には浜松花蝶ちん十周年を雄踏町文化会館で開催、多くのチンドン仲間が出演、お客さんも会場の外にまで溢れる盛況。本人も車椅子にのってサックスを吹き、歌をうたった。それから一か月後天国へ旅立った。冥福を祈ります。合掌。

《天国で盛り上がりつつある(?)メダカ生》

\*言いついで第一回校長の平山豊。静岡新聞・静岡放送の名物男。言いついで第一回校長の伊藤茂男。引佐町商工観光課長で全国で「この人あり」と言われた男。\*引佐町電ヶ岩洞社長、学舎つみくさの社長で、第十二回校長の戸田昭朗。\*第三回校長の渥美登良男(元校長で岩石に精進、浜北万葉公園の指導員を長く務める。万葉植物や染色にもたける。)\*第六回校長の浅野信子。面倒見のいい女性。\*第六回の校長の松田不秋。三遠南信の歴史文化に精通。三遠南信地域にあって「この人」ありと言われた。\*第七回の校長、吉林宏。天電阿多古川でキャンプ場やバーベキューの石神の里を経営。地域の活性化に尽力。\*第八回校長の林山寿樹。そば屋をやりながら、町政に対して辛口な論評を転回。地域づくりに向ける情熱は凄かった。町議に四回挑戦するが落選。他社の苦渋をなめる。\*第九回校長の坂柳享子。ジャズドラマーで第九回校長の坂柳博明のマネージャー。東京の有名なジャズメンを招き、学舎のつみくさでコンサートを何十回も開催。最後の最後まで夫を支え、ガンと戦う。\*第十三回特

別講師で絵馬師の安田織人。引佐町井伊谷の井伊谷宮に絵馬博物館がある。\*第十四回先生の天野恵美子。現清水区の庵原町で染色と染物を競る。\*第二十四回校長の平本尚久。東栄町でミニチュアの家庭を創る作家。その精巧さから多くの建設会社から依頼される。\*市川祐一、茶農家、土にこだわり、環境にこだわり、その緻密さは凄い。とよおか探れた元気村創立の一人。\*山形尚、ガンにおかされながらも第三十三回のめだかの学校、二十一世紀に残したい歌、赤とんぼで「すりきれとんぼ」とみんを笑わらせ。\*第四十三回先生の佐野玲子。肺がんにおかされながら杜絶にガンと戦う。先生の時、ガンが悪化し登校できず、事務局の榊原幸雄が代読。\*佐野久、富士市で製材業を営みながら、農家レストラン「ちやの生」を運営する玲子さんを手伝う。が、後を追うように死去。\*第四十五回校長の岡田清多良。いろいろの会を主宰。肺がんにおかされながらも校長を引き受ける。何とその頑張りや余命を大幅に伸ばす。\*浜松で「フラワーセンター若草」を経営の、柴田良明、花に寄せる愛は凄かった。木村智子メダカの父。\*めだかの学校開校時の引佐町商工観光課長で、めだかの学校を影で支えてくれた永田清。第二回都田川水源まつりの実行委員長。\*警田市しきじの里の社長の佐野啓子、地域の食材を使って、こだわりの加工食品を提供。\*筋萎縮症をわずらいながらも氷砂糖や精米所を運営。現学舎の近くにあり、めだかの学校を支えてくれた小平史伸。報徳精神の知識豊富だった。

まだまだおられると思うが、知り得るところを書きました。今回はめだか春秋にかわり、物故者を掲載することにしました。

# トピックス

## ■磐田市の郷土史家「遠淡海国今昔物語」を自費出版

磐田市の郷土史家、小林佳弘メダカ。昨年12月に、遠州地方の忠実などを紹介する『遠淡海国今昔物語（とおつあわうみのくにのいまむかしのものがたり）』を自費出版。

「歴史と伝説に囲まれた「故郷・遠州」……。この素晴らしい故郷の物語を永遠に伝えたい。ふるさとを愛する念いが、この一冊に結実した。」とおっしゃるだけに、数十年足で稼いだ資料だけにその中味や凄くいいこと、凄いいこと。

県中・西部地域を対象に発行している文化情報誌「NEOばんぶきん」も創刊38年、通巻四二四号を数える。また遠江の国府の今昔ものがたりの「いわたに住みたくなる本」「続いわたに住みたくなる本」、東海道の脇往還、その名も可憐「姫街道」『本坂通』今昔ものがたりなどの書籍も自費出版している。

小林メダカの人となりは、2月1日（月）から4月24日（日）まで、浜松文芸館（クリエート浜松5階展示室）にて、浜松市・浜松市文化振興財団主催で、「小林佳弘・絵と文で伝える地域の歴史・浜松今昔物語展」が開催されている。作者をはじめ、著作展と作品展と、のぞき見るこ



とができます。ぜひお出かけください。なお、3月13日（日）夜、磐田市浜部の「醍醐荘」で、「遠淡海国今昔物語」の出版披露の会を予定しています。

「遠淡海国今昔物語」。B6判、四百二十九ページ。千部作り、一部三千二百四十円。問い合わせは、ばんぶきん出版、小林メダカ0538・37・8914へ。

## ■事務局だより

月日の経つのは早いもので、もう2月。4日は立春。この頃の気候は三寒四温？。この気候の変化には身体がついていくのが大変。「まだまだこれからだ！」と気だけは走るのが転ぶことも多くなった。

さて、第90回めだかの学校は27年12月4日（金）。校長菅原敏一、教頭水島加寿代、用務員草野昭昭。90回のテーマは『継続はちから 文化や歴史をつくる』今回は90回の節目で特別授業「めだかの学校23年を探る」。めだかの学校はどのように設立されたのか。3年前に森町で開催された「第11回全国まちづくり交流会」で発表したスライドを紙芝居にして水島加寿代教頭が説明。それを言い出しつべの榊原幸雄が補足説明。そのあと一回生である牧野久子、石野省三……と、回の早い順に鈴木正士、今村純子、伊藤英雄、水村春江……など、数人が当時のことを語る。

開港当時の状況が垣間見えたでしょうか。最近入校した草野博昭用務員が質問して

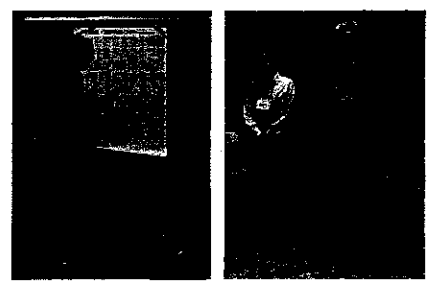


授業を終わる。めだかの学校90回の足跡が間に合っていない、より分かったと思うのに申し訳なし。

次回三役発表。第91回めだかの学校は、28年3月4日、校長先生大島たまよ、教頭大谷洋介、用務員戸田喜久雄、二人のベテランにびっくりポンの用務員、異色の顔合わせもめだか流。授業の様子は写真でご想像ください。

閉校後、菅原校長が鈴木正士邸に宿泊するので、榊原淑友、村松達雄、池谷俊裕、戸田喜久雄、榊原幸雄の七人で12時まで談笑。年を重ねたのか無理が効かなくなつたとはいえない感想とは。

第91回めだかの学校の職員会議を1月14日（木）19時から学舎で開く。この日は寒い日で出席者は13人。はじめに第88回校長の藤田潤吉メダカが12月24日に逝去したこと、冥福を祈ってから始める。23期の通年テーマが『足元の歴史に学ぶ』ということから、今回のテーマは『地域の歴史をたずねて』。88回、89回、90回と3回特別授業がつづいたので、三時限にする。一時限目 社会「いい加減な城下町横須賀」鈴木武史先生、二時限目 歴史「明治の群像あれこれ」村松達雄先生、三時限目 家庭科「直虎II以外と知らない歴史上の女性たち」大島たまよ先生。3先生とも一言言をもっている。いやア、面白い話が聞けるかも。



■第23期の受け付けしています  
第23期は、平成27年9月1日から平成28年8月31日までです。毎年度継続手続きが必要ですが、継続手続きがまだなされていない生徒は名簿からはずれ自主退学となりました。随時受け付けはしています。新しく希望される方がいましたら事務局までご連絡ください。資料と申込書を送ります。

■今回もめだかの学校だより遅れてごめんなさい  
いつもお手伝い頂いている鈴木武史メダカ、伊藤英雄メダカ、石野省三メダカ、田村進治メダカ、草野博昭メダカ、大島たまよメダカ、いつもまとめて印刷して下さっている間瀬亮太メダカ、発送などのお手伝い榊原明美さんありがとうございます。

■めだかの学校だよりの原稿を！  
次回の発行は、5月1日予定。締切りは、4月20日、みなさんの日頃の活動、イベントの開催など送ってください。郵便かFAXで。メールの方は、  
「mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp」  
間瀬亮太090・50099・0986です。  
(メールの方は割付の関係もあるので二報を)

■めだかの学校の事務局  
〒438・0105 静岡県磐田市家田5  
29番地20 榊原幸雄方 TEL 05  
39・62・6691 (FAX同じ)  
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一  
宮3150。電話 0538・89・77  
30 開校日の午後4時以降のみ使用可。  
携帯 080・1612・9130

